

ボウリングアスリート 浅野 なつみ

私は、今回はボウリングで参加しました。スコアは2日間ともいつもの練習の時より良かったです。でも、私より上手な人がいて金メダルはとれませんでした。残念だったけど、銀メダルがとれて嬉しかったです。次はもっと頑張って金メダルをとりたいです。

開会式で、手話のダンスを見てすごくカッコイイな～と思いました。私も、あんな感じに手話のダンスをやりたいなと思いました。

あと神楽の竜が、たくさん出てきて迫力満点でした。本当に生きているみたいで、すごいなと思いました。

4年前に女子バスケットチームとして一緒に世界大会に行った人たちとまた会うことができました。みんな元気そうで良かったです。

宿舎では、大阪、岡山、岐阜のアスリートと同じ部屋になりました。みんなで女子会をしてとても楽しかったです。またみんなに会いたいです。



卓球競技 ヘッドコーチ 浦本 朋視

ナショナルゲーム広島大会の卓球競技には、アスリート2名、コーチ1名と前回大会より少数で参加しました。

アスリート2名とも予選の結果、ディビジョンが変更となり、苦戦する事を予想しましたが、本選でも通常のプログラムで練習している成果を十分に発揮して、事前合宿で目標にしていた「今までの自分より、一球でも多く相手のコートに返す！」のテーマをクリアできメダルにつながったと思います。

私はヘッドコーチとして2回目の参加でしたが、今大会は、コーチがアリーナに入場することができたため、アスリートを間近で見ることができ、競技中にも他地区のコーチと多くの交流を図る事ができました。

卓球 ファミリー 小川 直子

広島は私の故郷で、家族、従兄弟、友達が応援に来てくれました。みんな友輔の成長を見守り、応援し続けてくれており友輔の活躍を見て喜んでくれました。

改めてスペシャルに出会い多くの人に支えられていたことに感謝します。息子は、他地区のコーチ、アスリート、ボランティアさんといろいろ話をし多くの仲間と交流できる場を作っていくと話をしたようです。試合では、決勝ディビジョンが上がった中、堂々と戦って銅メダルをとったことも嬉しかったです。

大阪の理事として、みんながいろんな場所で多くの交流の機会が持てるように、話をしてきたという友輔に成長を感じる事ができました。今後は一人でも多くのアスリートがチャンスをつかみ、自分が味わわせてもらったような経験が出来るように、手伝いをしていきたいとの希望を持っています。私も支えて応援していきたいと思っています。

バドミントンヘッドコーチ 原 広実

今回は、シングルスゲームに1名、個人技能コンテストに1名、コーチ2名の4名で参加しました。事前合宿もあり、他競技も含め大阪チームとして、まとまった行動がとれました。

競技会場の広島経済大学の体育館は高台にあり、応援ファミリーは苦勞されたようでしたが、広くてコート数も多くとることができ、スムーズな競技会となりました。

競技役員もアスリートへの対応が穏やかで、安心してゲームや個人技能に参加できました。競技以外の場面でも他地区のアスリートやボランティアとの交流場面もあり、SOの意義を感じました。

広島経済大学バドミントン部員とのユニファイドゲームも大いに盛り上がりました。大会ボランティアの方が、終始笑顔で対応してくださいました。広島駅でお土産を物色中に「こんにちは！」の声に振り返ると、前H DALとして大阪チームについてくれていた方で、私たちではなく、向こうから声をかけてくれたことにも感激しました。

改札を通る時まで多くのボランティアさんがお見送り下さり、笑顔と感謝、感謝の有意義な大会参加となりました。



バドミントンファミリー 竹中 慶子

「広島大会3日目。バドミントンの決勝大会を応援するために広島経済大学に徒歩で向かいました。

天候は快晴。広島経済大学は山の上であり、坂を登って行くと、スペシャルオリックスの旗が青空にはためいていました。久しぶりの光景です。

あっという間に決勝が進められました。その間、大学生のボランティアさんが細かく配慮して頂きました。コート間近で観戦することができて、アスリートの緊張感が伝わってきました。そしていい結果を残せた時のアスリートの喜びの表情も見れました。

ただ、我が子の時は、直視できなくて2階からそっと観ていました。この3年間、交流試合もなくなり、他府県のアスリートと試合ができて、久しぶりの高揚感を味わわせていただきました。

充実した日々を過ごさせて頂いて有難うございました。帰りの広島駅では全国のSOの方々の活気が溢れていました。」



2022年活動報告

2022年は、年度はじめは、活動予定でしたが、1月中旬には、緊急事態の為休止をしました。ようやく、3月より再開ができました。その時の様子を報告いただいたものです。アスリート、ボランティア、そしてファミリーの思いが、あふれています。

バドミントン

ファミリー 中井 直美

2022年も「まん延防止等重点措置」の発令からスタートし、バドミントンは4月からの活動となりました。久しぶりに皆さんと再会できた時は、変わらないお元気そうな様子がとても嬉しかったです。その後は感染状況を気にしながらも、順調に年末まで活動ができました。

我が家は入会後半年足らずでコロナ禍の影響を受けましたが、今年は練習回数も多く、息子は毎回楽しんで参加させてもらえました。そんなご機嫌な息子を見ながら私もホッとできるひとときとなりました。活動できる状況が親子共々本当に有り難かったです。

今後も感染予防に気をつけながらプログラムが継続できることを心より願っています。

陸 上

中河内陸上ファミリー 渡辺 真由美

今年度もコロナ禍で何度か中止もありましたが、八尾支援での活動をメインに東大阪支援でも活動する事が出来ました。学校を卒業すると運動する場が無いので、スペシャルの活動はありがたいです。

ファミリー 山崎 美子

少ない回数でも、充実した活動が出来ていたと思います。学校卒業して、10年以上の月日が過ぎましたが、今でもスポーツ出来る場があるのは、本当に貴重で有り難く思います。親子共々、身体が動くかぎり継続していきたいです。

ファミリー 竹井 雅代

なかなかコロナが収まらない中、今年も活動することができて嬉しいです。

個人的には、身体を動かす場、そして参加されている皆様に出会える場として、親子ともに大いに楽しませていただきました。

ファミリー 小林 和美

コロナ禍でもできる範囲で活動してくださってアスリートはもちろんですがファミリーも協力して楽しく活動できたこと、外の空気を吸いながらいい意味でのストレス発散になりました。

ファミリー 中井 愛子

コロナ禍で、家に籠ることが普通ようになってしまい、身体を動かす機会がどんどん減る日々。そんな中、プログラムで楽しく身体を動かせる事は、とても有難いです！

ファミリー 内蔵 順子

コロナで活動しにくい中、コーチ、ファミリーの皆さんの創意工夫で活動継続していただいているおかげで、今年の活動も、いっぱい笑顔にあふれました。

ファミリー 山口 智美

コロナ禍で、喋ったり、笑ったりする機会も日頃、減った気

がしていますが、soに参加できた日は、親子で、とても晴れ晴れした気分になれます。広い運動場で、一緒に思いっきり活動を楽しめる時間は、とてもありがたいです。

ファミリー 北田 あけ美

コロナ禍に入って3年目、活動の自粛は解除されましたが、今年度も感染対策の中での活動になりました。そのおかげで皆さんが安心して活動に取り組めたのですが、マスクなしでグラウンドを元気に走るアスリートに声援を送れる日が早くきてほしいと願うばかりです。

ボウリング

なわてボウルファミリー 辰巳 幸子

今年度は、4月以後年末まで21回実施し、怪我やトラブルもなくプログラムを無事行う事ができました。まだまだコロナ禍で行動制限があったりする中、皆さん、集中してボウリングを楽しみ、しっかりとストレス発散できていたようで良かったです。

競 泳

二の切プールアスリート 東谷 賢佑

僕が楽しいのは水泳プログラムの時の体操です。大きな声で始まりと終わりの挨拶をするのが好きです。水泳練習は力を出して頑張っています。手をまっすぐ伸ばして25メートルを早く泳げるよう頑張っています。

ファミリー 東谷 真紀

いつも楽しく参加させていただきありがとうございます。プログラムでの様子をガラス越しに見ています。声は届きませんがアスリートの頑張っている姿をファミリー全員で応援しています。これからも全力で楽しく続けて行って欲しいと思います。

卓 球

アスリート 馬場 環美

今年前半はコロナの影響で卓球プログラムできなかったけれど、4月に卓球プログラム再開して気分転換したり、5月29日枚方総合体育館で近畿ブロック競技会に参加して、とても楽しかったし、私なりに他の人に少し話したりして楽しかったです。

6月末にラケットのラバーを替えて、7月にプログラムで使うつもりだったけれど、体調が悪くなりお休みしました。卓球プログラムの練習に復帰してから、10月に走れるようになった事など、スペシャルオリンピックスの仲間に話を聞いてもらいました。私がスペシャルオリンピックスに入っていなかったら1人で抱え込んでいたと思います。元気になってまた、頑張っています。

● 2023年 スペシャルオリンピックス日本・大阪 冬季合宿 ●

ようやく開催できました。アスリート19名コーチ16名合計35名にてコロナ感染防止に努めて実施しました。今年は、スキー所の雪も多く、隣のスキー場に移動もなくゆったりと各グループでの課題に取り組むことができました。久しぶりの雪上トレーニングを楽しみ、来年の冬季ナショナルゲームへの思いも大きなものとなりました。

スノーシューヘッドコーチ ● 長村 泰正

スノーシューはアスリート3名、コーチ2名の参加でした。3年ぶりの合宿、しかもコロナ禍の開催ということでもいつもと違ったことも多くアスリートにとっては混乱することもあったと思います。いつもなら参加アスリートが10名以上ですが、今回は少人数なので活動量も多くなり、雪山なのにアスリートも、コーチも汗びしょりになりました。

今年は雪が多く、しかもパウダースノーでスノーシューにとっては最高の環境でした。少し山に登って美しい景色を見たり、動物の足あとを探したりして楽しみました。ソリ遊びなどもしながら楽しく活動できました。発表会は30m走の発表をしました。前日に全員で雪をスノーシューで踏み固めてコースを作り何度も何度も発表会の練習をしました。本番ではみんなの前で練習の成果がおもいきり発揮できたと思います。

スノーボード コーチ ● 西 純也

今回は3人のアスリートが参加しました。僕はスノーボードというスポーツを、楽しむ事を第一に考えています。とにかく滑って滑って滑りまくる。楽しくなって、ターンがしたい、上達したいと思ってくれればいいと思います。

今回の参加者3名の足並みに違いがあり、トレーニング内容に苦勞をしましたが、それぞれ全力で滑っていました。そして、楽しんでくれたようで、嬉しく思いました。マンツーマンで、サポートできれば、もっと楽しめたかなと感じました。

アルペンスキーヘッドコーチ ● 三宅 徹

待ちに待った冬季合宿。残念ながらアスリートの参加者数は例年の半分でありました。近年の積雪不足が心配ではありましたが、今年は、十分な積雪量であり、天候にも恵まれ好条件での練習ができました。

1日目到着後すぐに数時間のトレーニングで足慣らし。2日目は午前と午後にじっくり課題を見極めつつ滑っていました。最終日に発表会もあるということで、事前に滑るコースなどを事前に練習して終了。1日たっぷりトレーニングした疲れは美味しい食事と入浴で癒して自室でゆっくり過ごせたようです。3日目は、練習後、各グループ別に発表するお馴染みのイベント。アルペンスキーのグループは、ポールで設定したロングコースとショートコースを滑りました。スノーボードグループでは、練習してきたいろいろな滑り方を交えて総合滑走を披露しました。スノーシューインググループでは、30mの直線での2名同時スタートの競走。真横で見守るギャラリー全員の声援を受けスタート、ゴール。いっばいの拍手に嬉しさもいっばいでした。コロナ禍が落ち着いたおかげで今回合宿ができプログラム担当者としてもほっとしています。自然の中での屋外スポーツ活動の醍醐味をたくさんのアスリートの体験してほしいです。

今後の冬季合宿が中止することなく実施されることを楽しみにしててくださいね。最後になりましたが、今回協力いた

いたコーチの皆様にも心より感謝いたします。次回以降も継続したご支援をお願いいたします。

アルペンスキー コーチ ● 谷澤 祥行

久しぶりの合宿、一番の感想は「アスリートに会えて嬉しかった！楽しかった！」です。何気ないコミュニケーションが新鮮で、改めてコロナ禍の窮屈さを感じました。

活動班では、3名コーチでD班を担当しました。アスリートは6名でスタートし、最終的には8名に増えました。トレーニングでは、リフトも多く乗れましたし、ケガもなく無事に成果をもって楽しく合宿を終えられて良かったです。

ファミリー ● 山崎 美子

久々の冬合宿、期待と不安で出発当日を迎えました。コロナ禍の中、無事に帰宅出来るかハラハラドキドキで待ちました。

参加者、皆んな元気に帰宅できて、本当に良かったです。

雪も豊富にあったようなので、しっかり楽しめたのではないのでしょうか？大樹も帰宅した次の日、作業所に行った時、冬合宿で食べた夕ご飯の様子等嬉しそうに伝えてたようです。

いつもより、緊張感のあった冬合宿だったと思いますが、コーチ、ボランティアの皆様のおかげでまた貴重な経験ができました。ありがとうございました。冬の大会目指して、今後も頑張れたらなと思います。

ファミリー ● 道島 美佳

3年ぶりのスキー合宿に参加出来た事を感謝します。本人にスキー合宿に行くかを聞きましたら、行くと即答でした。彩も35歳になり、年齢的にも怪我などを考えると、後どれくらいできるのかと思い、コロナ禍ではありましたが申し込みました。

以前指導して頂いたコーチがついて下さり、今年は本人もステップアップできたようで、その事が嬉しかったようで、合宿からの帰りの興奮さめやらぬ様子で「スキー楽しかった」「上手に出来たで、すごいやろ」と本当に嬉しそうに話をしていました。本人なりに自信がついたと思います。スペシャルオリンピックを本人がやると決めた事は続けてきましたが「継続は力なり」をあらためて感じました。ありがとうございました。



[2023年スペシャルオリンピックス冬季世界大会（ワールドゲーム）ベルリン] 日本選手団 決定！

今年6月16日～25日の10日間にわたって開催される世界大会日本選手団に、大阪から1名のアスリート2名のコーチが選出されました。昨年開催されたナショナルゲームに参加したアスリート、コーチから希望者を募り先行されました。柔道の平岡拓晃さんを団長として、アスリート36名パートナー11名コーチ役員26名合計73名が9競技に参加します。大阪から選出された3名をご紹介します。応援よろしくお願いします。

バドミントンアスリート ● 竹中 有花

広島でのナショナルゲームは久しぶりの大会だったのでとても緊張しました。終わってからベルリンの世界大会に行ける事になり、アテネの世界大会でもいろんな国のアスリートに会えて楽しかったので、今回も頑張りたいです。

バドミントンコーチ ● 木庭 照美

6月のWGベルリン大会にコーチとして参加をととても嬉しく思っています。同じ競技のアスリートだけでなく、他競技のア

スリート達のサポートもできるように精進したいと思います。

世界のSOの様子を肌で感じられる素敵なチャンスを活かせるように頑張ります。選手団の一員として「PRIDE」を持ってアスリートのサポートをして、笑顔で過ごしたいと思います。

ボウリングコーチ ● 柳井 祥晴

アスリートやパートナーが普段のトレーニングの成果をベルリンでの世界大会でも発揮できるように、サポートをしていきたいと思っています。また、大会参加を通して貴重な経験と思い出に残る大会になってほしいと思っています。

◆◆◆◆◆ ご寄付お礼 ◆◆◆◆◆

ゴルフ会場としてご支援いただいています「和幸カントリー倶楽部」様よりご寄付を頂戴しました。倶楽部設立30年を記念して、2022年10月21日に「GPRインビテーション」が開催され、そのスタート組としてSON・大阪アスリート2名が参加しました。表彰式にて、一般社団法人GPR協会様と和幸カントリー倶楽部様よりご寄付をいただき、SOの活動をご参加の皆様にご紹介いただき、今後のご支援もお約束いただきました。ありがとうございました。



ご寄付・ご協賛いただいた皆様（順不同・敬称略）2022年1月1日～12月31日

マルホ株式会社	SCSK株式会社	SCSK社会貢献活動クラブEarth One			
阪急電鉄株式会社	ダイキン工業労働組合	明治安田生命保険相互会社			
サントリーホールディングス株式会社	株式会社ベイ・コミュニケーションズ	株式会社コミュニティスタイル			
株式会社産業経済新聞社	宗教法人四天王寺	システムスクエア株式会社			
弁護士法人 淀屋橋・山上合同	大阪府ボウリング連盟	おそうじ本舗 住道店			
関西ユナイテッドプロテクション株式会社	滋慶学園グループ	一般社団法人大阪府サッカー協会			
イオンスタイル 大田店	株式会社トレント	大阪シティ信用金庫			
大阪西新梅田シティライオンズクラブ	恵地食品株式会社	学校法人エール学園			
大阪西シティライオンズクラブみらいへ支部	社会福祉法人わらしべ会	株式会社日本パーソナルビジネス			
株式会社ぽとふカンパニー	しらゆり保育園	ゆりかご保育園			
和幸カントリー倶楽部	一般社団法人大阪府サッカー協会	福岡博多中ライオンズクラブ			
コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社	一般社団法人GPR協会				
横田 憲子	古田 俊雄	築島 尚吉	井原 宗義	福田 雄三	赤松 祐吉
小川 節子	満上 久美子	高橋 真由美	中村 忠雄	喜多 美実子	木本 和義
坂田 良雄	玉井 恵美子	西口 均	野 利雄	福本 幸子	柳瀬 彩子

編集後記

新しい年が、始まって2か月が過ぎました。大阪の活動も感染拡大に充分注意しながら継続しています。グータッチにも慣れてきましたが、日常の平穏さが、大切なことを身にしみ感じています。平和であることを守る努力が必要なことを意識せざるをえません。改めて継続は力です。今回の題字は、「山崎 翔夫さん」です。

事務局長 井上 幹一

認定特定非営利活動法人 スペシャルオリンピックス日本・大阪

●会員報告（2023年1月1日現在）

正会員／29名

一般会員／715名

賛助会員／法人会員：24団体 個人会員：611名